



善正寺だより

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
☎:059-331-1670
fax:059-332-0733

掲示板法話

「当たり前」が「おかげさま」に 大転換される道が開かれる

長雨や台風の襲来に悩まされましたが、秋も深まり冬も近づく候になりました。道元禪師は「春は花、夏はトギス、秋は月、冬雪冴えて涼しかりけり」という見事な言葉を残しています。我々凡庸な人間にはとても及ばないような境地ですが、それでも許されて生かされていることに視野を転ずれば、毎日見慣れている風景がかけがえないご縁と味わえるようになるのではないのでしょうか？

日本は世界有数の長寿国になりましたが、なぜか高齢化社会の引き起こす問題ばかりが話題になり、先行き不安がクローズアップされる風潮ですが、如何なるものでしょうか？

「寄稿」欄を「覧頂きますと、釋俊悦さんは米寿を迎えた心境を

「生かされし参万式千日ああ米寿」と驚き、喜び、感謝の意を込めて詠まれました。一旦、病に倒れられました。懸念にリハビリに励んで、去る五月の大遠忌法要には中尊前一对と御絵伝前に随分大きな立華を兄弟、親せきの人の協力を得て寄進されました。通所中の施設のケアマネージャーさ



んが立華制作中のこの人の姿を見て驚くやら感心しきりであったそうです。だから、この身体が動き、生かされている今がおのずから驚きであり、喜びと共にお蔭さまと拝まれる心境を賜ったのでしよう。長年の聴聞によつて身に着いた智慧ある生き方の尊さを感じさせられます。

親鸞聖人は「歎異抄」第七条で、「念仏者は無碍の一道なり」と言われました。「無碍」(むげ)とは、単に障りがないというだけでなく、障りを転換して豊かな実りを与えてくれる、そういう世界を頂くことができるのが如来様の救いのお働きであります。

なぜ、念仏者は無碍の一道を歩むことが出来るのか？念仏とは如来さまが「限りない智慧の光をもってお前を導く親がここにおるぞ」と我を呼び覚ます言葉です。世の中に「当たり前」のことなど一つもない。日常の当たり前に見える風景が、「おかげさま」の風景に転換される。念仏申す人には、人間の枠組みを超えて仏さまのみ教えに従って人生の意味を再確認されていくような視野が開けるのです。

☆行事ご案内☆

報恩講 講師 ^{もりかいしん} 守快信先生 (滋賀・初)

11月2日(水) 午後1時半・夜6時半

(親鸞聖人のご生涯映像、音楽法要、琴演奏、法話)

※お非時(午前11時より12時)手作り料理をどなたもどうぞ

3日(祝)午前10時(法話) ※お弁当あります

午後1時半 三全仏教婦人会主催「報恩講」(法話)

写真アラカルト



◇緊急大募集!『伝灯奉告法要』団体参拝、来年5月11日(木)、バス1台40名、9千円、11月末日までに大至急申し込みを!

※「第6回善正寺門徒展」10月の1カ月間、百五銀行阿倉川支店ロビーで開催。11月2日3日の報恩講にも本堂へ展示。

◇絵手紙教室 11月8日(火)午前10時15回目川崎光子先生「下手でいい、下手がいい!」いつでもご自由に参加下さい。

◇キッズサンガ 11/5(土)4時。鐘つきは毎夕5時年中無休

◇三重組コーラス 11/17本山御堂演奏会 バス7時半、

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。1年分の寺報閲覧。

毎日更新のブログ「住職と坊守のつれづれ日記」好評。開設8年3カ月で21万9千訪問、一日約90訪問、悩み相談、大歓迎!即返信

◇一縁会テレホン法話:059・354・1454お電話を!

◇新納骨堂:後継者のない方、お墓でお困りの方ご相談下さい

◇法事の場所でお困りの方、寺にご相談下さい。本堂使用可

坊守スケッチ

伝灯奉告法要



十月一日より京都西本願寺では、第二十五代専如門主(大谷光淳様)の伝灯奉告法要が動まっています。十月、十一月、来年三月、四月、五月の連続十期(一期は八日間)、合計八十日間の長きに渡る盛大なご法要である。三重組は来年春の団体参拝が予定され、善正寺は五月十一日(木)にバス一台(四名)の参拝が先頃割り当てられた。募集締め切りが十一月末日。参加費は九千円。締切日も迫っているので、どうかお早目にご応募して頂きたい。かつての大法要ならば、難なく集まった人数であるが、高齢化の波でお参りして頂ける人数が減少。余程声を大にして積極的に呼びかけないと集まらないのではないかと危惧している。ご本山側でも以前は仮設席を設けて座りきれない人を收容し、大変盛大だった前回(昭和55年)の伝灯奉告法要には、バス1台で仏婦の人々と揃いの浴衣で法輪音頭を踊りに行った。今回は以前のようなお祭り騒ぎはないが、今の時代に相応しい厳かでアットホームな法要となっている。法要の様子は連日、本願寺のウェブサイトで全国にネット配信。午後2時から3時半までの生中継が自宅に居ながら見られる。専如「門主様は、先頃『ありのままに、ひたむきに』という本を初出版。たちまち十萬部を突破するベストセラーになった。不安な今を生きる人々

に「背伸びしなくていい、よく見られたいと思わなくていい」とアドバイス。また伝灯奉告法要に先駆けて全国60カ所でご巡回も行われた。常に行動する新門主様への期待も高まる。若き門主様の眼には、現在の寺の置かれた厳しい状況がどのように映ったのだろうか?本の中で「門主様は

「宗教に関心のない人がどんどん増えていきます。親から子へと伝わった家の宗教感が薄れ、寺と門徒の関係も希薄化しています。精神的支柱を失った現代人は、悩みや苦しみに振り回され自己中心的な生き方に陥りがちです」
 そういふ現代人の心の闇に光を当てた本を、ご法要のお土産にしよう。どうか一人でも多くの皆様が参拝されて、各人の『心のスイッチ』を入れる記念日になることを願っている。

寄稿

四日市市 釈俊悦

※生かされし 参万式千日 ああ米寿 (「ああ」の言葉の中に、驚き、喜び、感謝が込められていますね)

四日市市 釈清風

※時移り 三十路門主 伝灯の秋



☆若院夫婦の「育自な毎日」その24
 満2歳の誕生日を迎えた長女・紗恵へのバアチャンからのお祝いは「メルちゃん入門セット」という人形セットでした。数日前にキッズサンガのお友達を抱えていたお人形を、すっかり気に入ってしまいました。我が家にもやってきた真新しいメルちゃんで遊ぶ長女を見てみると、幼い頃の自分を思い出します。

私の場合はリカちゃん人形でした。ああでもない、こうでもないドレスを着せ、おままごとをして遊びました。他にも、祖母が旅行先でお土産に買ってきてくれる陶器の人形や木目込み人形を、いつも自分の部屋に飾っていました。長女がメルちゃん人形を箱から取り出す時、私までウキウキしてしまいました。

長女はメルちゃんのオムツを替え、「すっきりしたね」と話しかけていました。母親にしてもらっているようにメルちゃんをお世話している姿！

まだまだ手のかかる年齢だと思っていました。成長を嬉しく思いました。また、夕方のお参りで、長男・亮爾(4)の真似っこをして導師をしようとする姿にも成長を感じます。

この「育自な毎日」も連載2年目を迎えました。毎月、何を書こうか悩むのですが、「いつも読んでいるよ」と声をかけて頂くとやる気も倍増。これからも「愛読下さい。(若坊守)」

お知らせ

今年も十月の1か月間、百五銀行阿倉川支店で『第六回善正寺門徒展』には沢山の作品展示や「協力ありがとう」ございました。また作品応募がきっかけで、報恩講のお非時を召し上がった頂くご縁も嬉しく思います。これからも広く開かれたお寺を目指します。

ホットニュース

◇来年5月11日(木) 京都西本願寺『伝灯奉告法要』の団体参拝者を緊急大募集!参加費9千円、締め切り11月末日まで。バス一台40名。お問い合わせは「ご参加下さい」。

敬弔

★小金ふみ子様(67・四日市) 10月4日 往生されました。合掌

カンパありがとう

鈴木登代子様、小西あき枝様、他匿名様より頂戴しました。感謝!

★ 編集子より ★

「善正寺だより」第二七五号をお届けします。◇本願寺で始まった伝灯奉告法要のネット中継を見ながら将来に思いを馳せる。人口減少、地方消滅の危機に不安が増す時代。大勢の人を集めて布教伝道というスタイルは困難になるのではないかと、却って宗教的ニーズ(必要性)が増すことはあってもなくなる筈はない。◇ニーズにどう応えるか?自問自答したい。合掌。

坊守スケッチにも書きました。が伝灯奉告法要団体参拝
を緊急大募集しています。締め切りは十月末日。定員は
バス一台。参拝日は来年五月十一日(木)。参加費九千円
締め切り日も追っていますので、どうかお誘い合わせてお
申し込み下さい。去る十月一日より法要が始まり、私はずっと配
信で法要の生中継を見ました。専如門主様は我が長
男と同じ歳の三十九歳。前門林ご夫妻も私達と全く
同じ歳です。共に同じ時代を生きてきた世代です。片
や全国一万余寺の浄土真宗本願寺流の総本山、片や地
方都市の門徒数少なく墓地もなく兼業しなげればな
らない寺。寺の大小に極端な差があるとはいえ、昨今の寺
を取り巻く環境の厳しさは同じです。むしろ私達以上に
何倍ものご苦勞がおありのもしれません。この苦勞を打破
するヒントが「家族の絆」ではないかと感じました。法要の
最後に大々宗家のご家族が揃ってお出ましになりました。
たゞ我が孫二人とほぼ同年齢のお子様達、そのインタビュー
に親近感を覚ええました。現代は横の情報か世界の
隅々まで瞬時に伝わる時代です。しかしそれはすぐさま
消え去るような泡情報ばかり。縦の情報は生きていく
上で大切な心の芯となる情報ばかり。伝える努力を
しないと伝わりません。それには家族の絆が不可欠。
今回の伝灯奉告法要が皆様に何らかのヒントを与
えてくれるのではないでしようか？ぜひ一緒に参拝し
ましょう。合掌

平成二十八年十一月

善正寺坊守拜